

1. 設 計 概 要
建物名称 鳴門総合運動公園野球場「オロナミンC球場」
建築主 徳島県
所在地 鳴門市撫養町立若四枚61番地
用途地域 準工業地域
防火地域 法22条地域
その他特記事項 〇都市公園

第3種地域
第2種地域
第1種地域
「官庁施設の総合耐震・対策波計画基準（令和3年版）」耐震安全性の分類に準ずる
建設分類等
建築物(棟名)
構造体
建築非構造部材
建築設備
エレベーターの耐震クラス
エスカレーターの耐震処置
※昇降機の耐震処置は「昇降機技術基準の解説」2016年版による

分類
項目
1 地中梁の連通管、通気管及び人通孔の製作、設置及び補強
2 地下室等の二重壁内の水抜き管の製作及び設置
3 S、SRO造梁貫通管スリーブの製作、設置及び補強
4 RC造梁貫通スリーブの製作及び設置
5 同上補強
6 床や壁の貫通及び半貫通部分のスリーブ、箱等の製作及び設置
7 同上補強
8 各貫通穴あけ箇所の空隙充填及び修繕
9 梁貫通予備スリーブの孔塞の製作、設置及び耐火被覆
10 防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理

項目
1 自家発電設備用オイルタンク及びサービスタンク迄の油配管工事
2 サービスタンク用防油堤壁体及び仕上げ
3 自家発電設備用一次側給排水配管工事
4 自家発電設備用給排水設備工事
5 ユニットバス・ユニットシャワールの換気扇の設置
6 一般換気扇の設置
7 同上用の取付枠の製作及び設置
8 機器類付属制御盤とその二次側配管配線工事
9 自動制御などの現場盤への電源接続
10 設備用機器、付属制御盤への電源接続及び接地工事
11 生産設備用機器、付属制御盤などの取付及び二次側配管配線工事
12 電動ブラインド、電動カーテン、電動シャッター、自動ドアなどの制御盤及び二次側配管配線工事
13 ガス漏れ警報設備
14 制御用の電線槽の設置
15 制御用のフロートスイッチの設置
16 光天井などの照明器具用箱付及び下面仕上材料（ルーバー等）の設置

設計者
一級建築士 一級建築士 一級建築士 一級建築士
第286776号 第298249号 第386121号 第000000号 第313839号
渡邊 和幸 土生 達哉 山本 匡希 梅地 大雅 池田 爽 高原 正行

設計番号
17992
特記
徳島県県土整備部管轄
徳島県鳴門総合運動公園野球場改築工事のうち建築工事（第1工区）
建築工事特記仕様書（1）

図面番号
A-005
AZUSA SEKKEI
株式会社 宮建築設計
株式会社 特設計 関西支社
株式会社 特設計 関西支社

注：該当項目は番号に〇印の付いたものを適用する。区分は〇印か、◎印のない場合は※印の付いたものを適用する。

コンクリートの仕上りの平たんさ (6.2.5(2)(イ)(表6.2.5))
2. 型枠
2. 耐震スリット
4. 土間コンクリート

8章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事
1. 建築用コンクリートブロック
2. ALCパネル
3. 押出成形セメント板 (ECPパネル)

9章 防水工事
1. アスファルト防水
2. 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材の種類
3. 合成高分子系ルーフィングシート防水
4. 塗膜防水
5. ケイ酸質塗布防水
6. 複合防水
7. 金属シート防水
8. セメント質系防水
9. 外壁防水
10. 地下外壁防水

7章 鉄骨工事
1. 耐火被覆耐火構造

3. 押出成形セメント板 (ECPパネル)

2. 改質アスファルトシート防水

10. 地下外壁防水

設計者: 一級建築士 山本 匡希, 一級建築士 池田 爽, 一級建築士 高原 正行, 一級建築士 浅山 明, 一級建築士 外山 博文
設計番号: 17992
特記: 徳島県土整備部管轄課 徳島県鳴門総合運動公園野球場改築工事のうち建築工事 (第1工区)
図面番号: A-007
縮尺: -
設計者: 株式会社 梓設計 関西支社
株式会社 MIYA Architect's Office

13章 屋根及びとい工事
1. 長尺金属板葺
材料 ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル (13.2.2(1))(表13.2.1)
・溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯のA種、S6
・冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
・塗装ステンレス鋼板及び鋼帯
・その他
塗膜の耐久性の種類 (13.2.2(1))
めっき付着量 (13.2.2(1))
金属板の板厚 ・0.4mm ○0.5mm ・0.6mm ・0.8mm ・ mm (13.2.2(1))
下葺材料 ○アスファルトルーフィング940 (13.2.2(3))(表13.2.2)
・改質アスファルトルーフィング下葺材
(一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ)
断熱材 ※あり (材種)高性能フェノールフォーム 厚さ○25 mm ・なし (13.2.3(1))
屋根葺形式 ・立て平葺 ○心木無し瓦葺葺 ・横葺 ・図示 (13.2.3(1))
建築基準法に基づく風圧力に対する工法 (13.2.3(2))
耐風圧性能値 建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力: ※建築工事特記仕様書(1)の設計気象条件による。
葺板の寸法・厚さ、下地、留付方法 ※図示
横葺きの場合のけらば納め ・つかみ込み納め ・けらば包み納め (13.2.3(4)(a)(b))
雪止め ・設置する(工法 ※図示) ○設置しない (13.2.3(4)(c))
○指定のない付属材料は、屋根葺工法に応じた専門工事業者の仕様による。
2. 折板葺
材料による区分 ※鋼板製 (13.2.3(1))
材質 ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル (13.2.2(2))(表13.2.1)
・溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
・ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯のA種、S6
・冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
・塗装ステンレス鋼板及び鋼帯
・その他
金属板の板厚 ・0.6mm ・0.8mm ・ mm (13.2.3(1))
塗膜の耐久性の種類 (13.2.2(1))
めっき付着量 (13.2.2(1))
形式 ・重ね形 ・はせ縫め形 ・かん合形 (13.2.3(1))
寸法 ・山高 (mm) ・山ピッチ (mm) (13.2.3(1))
耐力 ・等分布荷重 N/㎡ (13.2.3(1))
ホルト材料 ※SUS304(ナット共)
屋内のタイフレーム材料 ※溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 (13.2.3(3))
面戸板 ※軒先面戸及び2重面戸は図示 (13.2.3(5))
断熱材 ※あり(材種・厚さ・mm 防火性能・なし) (13.2.3(6))
耐火性能 ※30分耐火 ・なし (13.2.3(7))
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 ※
耐風圧性能値 ※建築工事特記仕様書(1)の設計気象条件による。 (13.2.3(1))
耐雪性能に対応した工法・適用する(・図示) ・適用しない (13.2.3(2))
折板のけらば納め ※けらば包み ・図示 (13.2.3(3)(c))
3. シングル葺
種別
種別 種別 施工箇所
・アスファルトシングル葺
・不燃シングル葺
・金属箔シングル葺
責任施工の保証期間(竣工期日以降) ※10年
4. 粘土瓦葺
材料 種類 ※J型 (13.4.2(1)(7))
大きさ ※53A
産地
役物瓦の種類 (13.4.2(1)(4))
雪止め瓦の使用 ・使用する ・使用しない (13.4.2(1)(4))
凍害試験 ・行う ・行わない (13.4.2(1)(4))
瓦根木 材質 ※杉材 ・寸法 ※幅21×高さ15(mm)以上 (13.4.2(2)(7))
横葺強心材 材質 ※杉材 ・寸法 ※幅40×高さ30(mm)以上 (13.4.2(3))
瓦緊結用釘又はねじ 種類 ・径 ※2.3mm以上 (13.4.2(4)(7))
長さ ※先端が野地板厚さの1/2以上に達する長さ
横葺強等に使用する金物等 材質 ・ステンレス製・溶融亜鉛めっき処理鋼製
形状 ※図示
寸法 ※図示
留付け方法 ※図示
建築基準法に基づく風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結工法 (13.4.3(1))
風圧力 ※図示
地震力 ※図示
風圧力・地震力 ※建築工事特記仕様書(1)の設計気象条件による。
木材以外の野地板 材料
留付け工法
枝木の留付け工法 ※図示 (13.4.3(3)(4))
棟の工法 ・7寸伏せ棟 ・F形用冠伏せ棟 ・のし積み棟 (13.4.3(4))
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上を施す場合 (13.4.3(4)(4))
・モルタル ・瓦葺き用しっくい
5. とい
材料 たてどい ※配管用鋼管 (13.5.2(1))(表13.5.1)
・ステンレス管
○アルミ管(内面耐食塗装)
・硬質ポリ塩化ビニル管(・VP・RF・VP)・耐火被覆硬質塩化ビニル管
軒どい ※図示
製造所: (製品名:) (表13.5.1)
・表面処理鋼板(・表面及び裏面の塗膜の種類(・耐蝕被覆鋼板)
・ステンレス鋼板
軒どいの伸縮継手 ※図示
伸縮継手の間隔 ※10m以内 ・図示
オーバーフローの水抜 材質 ※SUS304 形状
金属屋根のドレン部ゴミ除去金網 ※図示
材料 ※ステンレスメッシュ

ルーフドレンなど (表13.5.1)
排水方法 ○吸引 ・横引 ○中継
寸法 ・80 ・100 ・125 ・150 ○図示
材質 ※鋼鉄製 ・SUS製
とい受金物及び足金物の機種、形状及び取付け間隔 ※表13.5.2による ・図示
多雪地域の適用 ・適用する ○適用しない (13.5.2(2))
防露 ※行う ・行わない (13.5.2(3))(13.5.3(1)(4))
材料 ※表13.5.3による(寒冷地の保温材厚さ mm)
工法 ※表13.5.4による ・図示
防露材のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆
掃除口 ※図示
試験の種類 試験箇所
○とい漏水試験 監理者の指示による

14章 金属工事
1. あと施工アンカー
確認強度は下の表による
※引張試験 (14.1.3(1)(c))(補1.8.1(8)(11))
あと施工アンカー種別 施工箇所 確認強度 備考
○金属系アンカー ○図示 ・ N/cmf ○現場での計算確認
○接着系アンカー ○図示 ・ N/cmf ○現場での計算確認
・ N/cmf
※あと施工アンカーの施工は(一社)日本建築あと施工アンカー協会の有資格者による
アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2(1))(表14.2.1)
○陽極酸化皮膜 JISH8601
表面処理 種別 皮膜厚um 色合 施工箇所
無着色陽極化皮膜 ○AB-1種 ※15 ※標準
酸化皮膜 ・AC-1種 ※6 ・標準 ・標準外
着色陽極化皮膜 ・AB-2種 ※15 ※標準
酸化皮膜 ・AC-2種 ※6 ・標準 ・標準外
○陽極化塗装複合皮膜 JISH8602
表面処理 種別 複合被膜の種類 色合 塗装の艶 (施工上) (タイルライン) (なし:製地処理) 施工箇所
無着色陽極化塗装複合皮膜 ・BA-1種 A2 ※標準 ※無 ・標準外(なし)
・BB-1種 B ※標準 ※無 ・標準外(なし)
・BC-1種 C ※標準 ※無 ・標準外(なし)
着色陽極化塗装複合皮膜 ○BA-2種 A2 ※標準(着色) ・有 ・標準外(なし)
・BB-2種 B ※標準(着色) ・有 ・標準外(なし)
・BC-2種 C ※標準(着色) ・有 ・標準外(なし)
JISH8602 改正規格の種類(性能規格)
種類 複合耐食性 耐食性
A1 過酷な環境でかつ、紫外線露光量の多い地域の屋外
A2 過酷な環境の屋外
※B一般的な環境の屋外
C 屋内
・過酷な環境とは、腐食・劣化の激しい地域で海浜及び沿岸
・一般的な環境とは、工業地域、都市地域及び田園地域
・海浜とは、海岸線から300m以内の地域
・沿岸とは、海岸線から300mを超えて2km以内の地域
・紫外線露光量の多い地域とは、亜熱帯海洋性気候に類似した地域(南西諸島等)
注) B-FE(P): 高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗料 B-FE(F): 中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗料
着色塗装皮膜
表面処理 種別 塗装厚 仕上がり 施工箇所
○B-FE(P) ・ 25um ○ソリッド・メタリック 図示
着色塗装皮膜 ・ B-FE(F) ・ um ・ソリッド・メタリック
着色陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 (14.2.2(2))
・三次電解着色
・自然発色
・その他の電解着色()
鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3(1))(表14.2.2)
表面処理方法 種別 施工箇所
溶融亜鉛めっき ○A種(HDZ177) t6.0以上
○B種(HDZ163) t3.2≦t<t6.0
○C種(HDZ149) t1.6≦t<t3.2
・D種 5線
電気亜鉛めっき ・E種 4線
・F種 3線
表面処理 ○JIS G 3302×1 図示
亜鉛めっき鋼板 ○JIS G 3313×2 図示
常温亜鉛めっき ・ZRC工法 ×3
注) ×1: 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
×2: 電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
×3: ZRC乾燥皮膜厚76um以上塗布
亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の焼付塗装仕上 (補14.9)
塗装種別 業地材料 仕上がり 表面処理 塗膜厚(um) 施工箇所
○高温焼付形ふっ素樹脂エナメル(B-FE(P)) ・ ・ ・化成皮膜 ・ ○図示
・中温焼付形ふっ素樹脂エナメル(B-FE(F)) ・ ・ ・ ・ ・
注) ×1: 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
×2: 電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
×3: ZRC乾燥皮膜厚76um以上塗布

3. 軽量鉄骨天井地下
天井材の単位面積当たりの質量が20kg/㎡を超える天井、傾斜、段差、曲面等の水平でない天井、システム天井 ※図示
天井高6m以上で面積200㎡を超える天井 ※図示
野縁の種類 屋内 ※19形 ・25形 (14.4.2(2))(表14.4.1)
屋外 ※19形 ※25形 (14.4.3(1)(2))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
吊りボルトの間隔が900を超える補強方法 ※図示 (14.4.4(6)(7))
天井ふところ1.5m以上(3m以下)の補強方法 ※14.4.4(8)による (14.4.4(8))
天井ふところ3mを超える場合 ※図示 (14.4.4(10))
耐震性を考慮した補強 ※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 (14.4.4(11))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
特殊軽量鉄骨天井地下 製造所、工法(同等品、使用部位:)
4. 軽量鉄骨壁地下
スタッド及びランナーの種別 ・50形 ○65形 ○90形 ○100形 (14.5.3(1))(表14.5.1)
スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示
特殊軽量鉄骨壁地下 製造所、工法(同等品、使用部位:)
出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※14.5.4(5)
5. 金属成形板張り
天井の金属成形板 (14.6.2(1))
種別 ○スバドル形 ・パネル形
製法 ○押し出し ○プレス ・
材種 ○カラーアルミ ○カ素かゑりアルミ ・
表面処理・仕上 ○B-FE(P) ○B-FE(P) ・
寸法 mm ○30 ○200 ・
板厚 mm ○0.6 ○0.6 ・
施工箇所 ○カハ・スタッド 軒天 ○カハ・スタッド 軒天 ・
取付け用下地 ※14.4(軽量鉄骨天井地下)による ・図示 (14.6.3(1))
長尺もの伸縮調整継手 ・図示 ※図示(施工箇所は図示による) (14.6.3(6))
壁の金属成形板
種別 ・折板 ・サイディング類 ・金属成形断熱パネル
製法 ・ ・ ・
材種 ・ ・ ・
表面処理・仕上 ・ ・ ・
寸法 mm ・ ・ ・
板厚 mm ・ ・ ・
施工箇所 ・ ・ ・
外装パネル工法 多雪区域の指定 風圧力 ※建築工事特記仕様書(1)の設計気象条件による。
笠木
笠木本体の材料 ※アルミニウム押出型材 ・アルミニウム合金押出型材 (14.7.2(1))
笠木部材の種類 ・250形 ・300形 ・350形 ・図示 (表14.7.1)
伸縮調整継手 ○図示(8m以内) ・図示(8m以上)
役物の種類及び工法 ※主材製造所の仕様
表面処理 ・AB-1種 ・BB-1種 ○B-FE(P) (14.7.2(3)(7))(表14.2.1)
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 ※図示
風圧力 建築工事特記仕様書(1)の設計気象条件による。 (14.7.3(1)(7))
E×P×Jカバー可動量(X、Y方向)
※下表による ○図示
可動量
屋根 外壁 床 内壁 天井
※50% ※50% ※50% ※50% ※50%
・100% ・100% ・100% ・100%
可動量50%の場合であっても、耐震安全性分類のA類とは、屋根の止水帯と各部位の耐火帯は、可動量100%に追従すること。
安全機構
※可動量を100%としない場合は安全機構を設ける。 (補14.11.1)
床カバーの安全機構の設置 ※図示
構造クリアランス、仕様
※下表による ○図示
(構造壁体の層間変形角・RC造、SRC造:1/200 ・S造:1/100 ・計算:1/)
パラベット
階 階高 mm 1Fからの床可動量 mm以上 耐火帯 mm以上 止水帯(床) 断熱材 通気帯
・無 ・有 ・有 ・有
8階 ・無 ・有 ・有 ・有
7階 ・無 ・有 ・有 ・有
6階 ・無 ・有 ・有 ・有
5階 ・無 ・有 ・有 ・有
4階 ・無 ・有 ・有 ・有
3階 ・無 ・有 ・有 ・有
2階 ・無 ・有 ・有 ・有
1階 ・無 ・有 ・有 ・有
耐火帯 ※特記なき限り有り
耐火帯は防火区画の壁、床においては建築基準法施行令第107条2項に規定する「1時間遮熱性能」、外壁、屋根部分においては同第107条3項に規定する「30分遮熱性能」(延焼のおそれのある部分については1時間)とし、仕様は製造所の仕様による。
止水帯 ※止水帯は外壁、屋根部分に施し、仕様は製造所の仕様による。また、その他の部分で止水帯を施す場合は上表による。
断熱材 ※特記なき限り無し
・断熱材(仕様)
遮音帯 ※特記なき限り無し
・遮音帯(仕様)
主材料・仕上
※下表による ○図示
部位 屋根 外壁 床 内壁 天井
主材料 ・ ・ ・ ・ ・
仕上 ・ ・ ・ ・ ・

耐震性能
※下表による ○図示
適用箇所
・軽歩行用
・重歩行用
・車面用 T-5
・車面用 T-14
・車面用 T-25
屋根・外壁の耐風圧力・耐雪荷重
※建築工事特記仕様書(1)の設計気象条件による。
材質 打板型 板厚 (mm) 孔径 (mm) 芯々距離 (mm) 施工箇所
種類 品番 施工箇所
工法 ※普通曲げ ○角出し曲げ (○A角 ・B角 ・C角) (補14.10.1)
試験の方法 試験箇所
・アルミニウム表面処理の皮膜及び塗膜の品質試験
・溶融亜鉛めっきの亜鉛付着量試験
・電気亜鉛めっきの皮膜厚さ試験及び塩水噴霧試験
・金属系地上の焼付け塗装の塗膜厚試験
・金属系地上の焼付け塗装の品質試験
(補1.8.1(c)(6))(補14.9.7(b))
15章 左官工事
1. 防火材料
2. 下地
直張り工法の場合のラス系下地の種類 ・ラスモルタル下地 ○ラスシートモルタル下地 (15.2.4(2)(7))
上記の場合で外張断熱工法とする場合の通気構造 ○行う ・行わない (15.2.4(2)(7))
建築基準法に基づく指定の有無 ・耐力壁 ・防火構造 ・準耐火構造 ○指定なし
上記の場合で外張断熱工法とする場合の通気構造 (15.2.4(2)(4))
ラス及び補強用ラスの仕様 (15.2.4(3)(7))
材料記号 ※K
種類及び単位面積当りの質量
・二層下地通気構造 ※波形ラス(W700) ・こぶラス(K800) ・力骨付ラス(BP700)
・単層下地通気構造 ※防水裏打ち材一体形成プラスC(RC800)
・図示
ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分 (15.2.4(3)(4))
・LS1 ・LS2 ・LS3 ※LS4(耐力壁) ・図示
ステープルの形状・寸法 (15.2.4(3)(9))
・リラスC(RC800)(※L925以上) ・) ・波形ラス(W700)(※L1019以上)
換気口部の措置 ※「公共建築木造工事標準仕様書」11.4.3(2)(7) (15.2.4(4)(7)(9))
・図示
耐力壁の場合のラスシートの施工 ※図示 (15.2.4(4)(7)(c))
・せっこうボード 種類 ・ 厚さ ・ (15.2.5(2)(7))
・せっこうラスボード 種類 ・ 厚さ ・
・木質系セメント板 種類 ・ 厚さ ・ ※15mm(木毛セメント板)
耐力壁の場合のこまい下地の適用範囲 ※図示 (15.2.6(1))
木すり下地の木すり用小根板の樹種 ※杉心去り材 ・図示 (15.2.7(2)(7))
3. モルタル塗り
モルタルの材料 ・現場調合材料 ○15.3.2.1(7) (15.3.2(1))
・既調合材料JIS A 6916(建築用下地調整塗材) (15.3.2(1)(4))
既製目地材 ※使用する 形状 ○図示 (15.3.2(6))
適用箇所
床の目地 目地割り及び種類 ※15.3.5(2)(9) ・ (15.3.5(9))
施工箇所
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材の接着力試験 ・行う ○行わない (15.3.5(4)(9))
5. セルフレベリング材塗り
種類及び品質 ※表15.5.1による (15.5.2(1))
塗り厚 ・10mm程度
施工箇所 ※図示
6. 仕上塗材仕上げ
仕上塗材の種類、仕上げ形状及び工法 (15.6.2(1)(4))(表15.6.1)(15.6.6)
種類 呼び名 仕上の形状 工法 施工箇所
・薄付仕上塗材 JIS A 6909
・外装薄塗材S1 ・砂壁状・ゆず肌状 吹付け
・ゆず肌状・さざ波状 ローラー
・可とう形外装薄塗材S1 ・砂壁状・ゆず肌状 吹付け
・ゆず肌状・さざ波状 ローラー
・外装薄塗材E ・砂壁状・ゆず肌状 吹付け
※平たん状 ※凹凸状 こて塗り
・ゆず肌状 ・さざ波状 ローラー
・着色骨材砂壁状 ・吹付け
こて塗り
・可とう形外装薄塗材E ・砂壁状・ゆず肌状 吹付け
※平たん状 ※凹凸状 こて塗り
・ゆず肌状 ・さざ波状 ローラー
・内装薄塗材S1 ・砂壁状じゆらく・ゆず肌状 吹付け
※平たん状 ※凹凸状 こて塗り
・内装薄塗材E ・ゆず肌状 ・さざ波状 ローラー
・内装薄塗材W ・砂壁状じゆらく 吹付け
※平たん状 ※凹凸状 こて塗り

17章 カーテンウォール工事
1. 見本の製作
2. 実大試験
3. 性能
4. 性能試験
5. メタルカーテンウォール

17章 カーテンウォール工事
実物大見本
性能値
風圧力
主要部材のたわみ
耐震性能
層間変位追従性能
水密性能
気密性能
耐火性能
耐温度差性能
遮音性能
断熱性能
振音対策
実大試験の項目
金属材料の種類
陽極酸化皮膜
陽極酸化塗装複合皮膜
JISH8602 改正規格の種類 (性能規格)

6. PCカーテンウォール
着色塗装皮膜
鋼材
耐候性鋼材
シーリング材の種類
ガラス取付け材料
断熱材料
区分
単一形材
単一パネル材
組立ユニット
接合部工法
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
品質
繊維補強セメント・コンクリート複合材
鉄筋の種類
シーリング材の種類
耐火目地材
断熱材

18章 塗装工事
1. 材料
2. 塗装業者
3. 素地ごしらえ
4. 錆止め塗料塗り
5. 合成樹脂調合ペイント塗り
6. クリヤラッカー塗り
7. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

16章 建具工事
設計者
法適合確認種
検証者
設計番号
特記

16章 建具工事
設計者
法適合確認種
検証者
設計番号
特記

16章 建具工事
設計者
法適合確認種
検証者
設計番号
特記

16章 建具工事
設計者
法適合確認種
検証者
設計番号
特記

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 8. 耐水性塗料塗り (DP), 9. アクリルシリコン樹脂エナメル塗り (2-ASE), 10. 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り (2-FUE), 11. つや有合成樹脂エマルションペイント塗り (EP-G), 12. 合成樹脂エマルションペイント塗り (EP), 13. ウレタン樹脂ワニス塗り (UC), 14. スティン塗り, 15. 木材保護塗料塗り (WP), 16. アクリルシリコン樹脂クリア塗り (ASC), 17. 常温乾燥形ふっ素樹脂クリア塗り (FUC), 18. 防塵用塗料塗り, 19. 性能試験.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 3. ビニル床シート張り, 4. ビニル床タイル張り, 5. 特殊機能床材, 6. ビニル幅木, 7. ゴム床タイル, 8. 接着剤, 9. カーペット敷き.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 11. フローリング張り, 12. 畳敷き, 13. セッコウボードその他ボード及び合板張り, 14. 断熱材・防露材, 15. 吸音材・遮音材.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 16. 合板, 17. 壁紙張り, 18. 断熱材・防露材, 19. 浴室天井材, 20. ポリスチレンフォーム床下地材, 21. 住宅用乾式遮音二重床下地材, 22. 弾性床.

19章 内装工事

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 1. 防火材料, 2. 健康障害への対策.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 10. 合成樹脂塗料, 11. 防音材・遮音材.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 12. 断熱材・防露材, 13. 吸音材・遮音材.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 14. 浴室天井材, 15. 断熱材・防露材, 16. 弾性床.

Table with 4 columns: 設計者, 法適合確認, 検査者, 設計番号. Includes project details for 徳島県東土整備部宮崎課.

Logos for AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants and MIYA Architect's Office.